国語（問題）

2026年度

〈2026 R08202023〉

注意事項

1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。

2 問題は2～14ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。

3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。

4 マーク解答用紙記入上の注意

（1）印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。

（2）マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	●良い	◎悪い	◎悪い
マークを消す時	◯良い	◎悪い	◎悪い

5 記述解答用紙記入上の注意

（1）記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。

（2）所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

（3）受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本								
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は、採点の対象外となる場合がある。

7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。

8 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。

9 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

10 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

（一）次のA・Bの文章を読んで、あとの問いに答えよ。

A

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

B

宗匠的俳句と言へば、直ちに俗気を連想するが如く、和歌といへば、直ちに［ a ］を連想致し候が年来の習慣にて、はては和歌といふ字は［ a ］といふ意味の字の如く思はれ申し候。かく感ずる者和歌社会にはこれ無しと存じ候へど、歌人ならぬ人は大方か様の感を抱き候やに承り候。をりをりは和歌を誹（そし）る人に向ひて、さて和歌は如何様に改良すべきかと尋ね候へば、その人が首をふつて、いやとよ和歌は腐敗し尽したるに、いかでか改良の手だてあるべき、置きね置きねなど言ひはなし候様は、あたかも名医が匙（さじ）を投げたる死際の病人に対するが如き感を持ちをり候者と相見え申し候。実にも歌は色青ざめ呼吸絶えんとする病人の如くにもこれ有り候よ。さりながら愚考はいたく異なり、和歌の精神こそ衰へたれ、形骸はなほ保つべし、今にして精神を入れ替へ[4]なば、再び［ b ］なる和歌となりて文

壇に馳駆するを得べき事を保証致し候。こはいはでもの事なるを、或る人がはやこと切れたる病人と一般に見なし候は、如何にも和歌の腐敗の甚しきに呆れて、一見して放棄したる者にや候べき。和歌の腐敗の甚しさもこれにて大方知れ申すべく候。

この腐敗と申すは趣向の変化 Y が原因にて、また趣向の変化 Y は用語の少きが原因と存ぜられ候。故に趣向の変化を望まば、是非とも用語の区域を広く Y べからず、用語多くなれば従つて趣向も変化致すべく候。ある人が生を目して、和歌の区域を狭くする者と申し候は誤解にて、少しにても広くするが生の目的に御座候。とはいへ如何に区域を広くするとも非文学的思想は容れ申さず、非文学的思想とは理屈の事にこれ有り候。

外国の語も用ゐよ、外国に行はるる文学思想も取れよと申す事につきて、日本文学を破壊する者と思惟する人もこれ有りげに候へども、それは既に根本において誤りをり候。たとひ漢語の詩を作るとも、洋語の詩を作るとも、将たサンスクリットの詩を作るとも、日本人が作りたる上は日本の文学に相違これ無く候。唐制に模して位階も定め、服色も定め、年号も定め置き、唐ぶりたる冠衣を著け候とも、日本人が組織したる政府は日本政府と申すべく候。英国の軍艦を買ひ、独国の大砲を買ひ、それで戦に勝ちたりとも、運用したる人にして日本人ならば日本の勝と申すべく候。しかし外国の物を用ゐるは、如何にも残念なれば日本固有の物を用ゐんとの考ならば、その志には賛成致し候へども、とても日本の物ばかりでは物の用に立つまじく候。文学にても馬、梅、蝶、菊、文等の語をはじめ、一切の漢語を除き候はば、如何なる者が出来候べき。『源氏物語』、『枕草子』以下漢語を用ゐたる物を排斥致し候はば、日本文学はいくばくか残り候べき。それでも痩我慢に、歌ばかりは日本固有の語にて作らんと決心したる人あらば、そは御勝手次第ながら、それを以て他人を律するは無用の事に候。日本人が皆日本固有の語を用ゐるに至らば日本は成り立つまじく、日本文学者が皆日本固有の語を用ゐたらば、日本文学は破滅致すべく候。

★ あるいは C にも馬、梅、蝶、菊、文等の語はいと古き代より用ゐ来りたれば、日本語と見なすべしなどいふ人もこれ有るべく候へど、いと古き代の人は、その頃新しく輸入したる語を用ゐたる者にて、この C 論者が当時に生れをらば、それをも排斥致し候ひけん。いと笑ふべき撞着に御座候。仮に C 論者に一歩を借して、古き世に使ひし語をのみ用ゐるとして、もし王朝時代に用ゐし漢語だけにても十分にこれを用ゐなば、なほ和歌の変化すべき余地は多少これ有るべく候。されど歌の詞と物語の詞とは自ら別なり、物語などにある詞にて歌には用ゐられぬが多きなど例の歌よみは申すべく候。何たる笑ふべき事には候ぞや。如何なる詞にても美の意を運ぶに足るべき者は皆歌の詞と申すべく、これを外にして歌の詞といふ者はこれ無く候。漢語にても洋語にても、文学的に用ゐられなば皆歌の詞と申すべく候。

（正岡子規『歌よみに与ふる書』による）

問一 傍線部1「三遷何用卜交鄰」とあるが、この句の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 一生涯に三度も左遷されたけれども、家族や近隣の支援によって気持ちが滅入ることは一度もない。

ロ 東京に上京後、三度まで転居して、どこに住んでもその快闊な人柄が近隣の人からは歓迎されるという占いが出た。

ハ 東京では処々に学校を中心とする市街地があるので、三度も転居するほど居住環境に神経を使う必要はない。

ニ 三度目の転居先である本郷界隈は、東京大学が近いが、そこでの暮らしと近所付き合いに馴染むために易を立ててもらった。

ホ 漢詩、短歌、俳句と主たる表現媒体を三度も変更したが、どのジャンルで創作する場合も、周囲には何の心配もかけない。

問二 傍線部**2**「もしユリそのものが……定着してきたということである」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 絵画的シンボリズムとして女性をユリに見立てることは、『谷間の姫百合』といった小説の題名などから日本に入ってきた西洋の見方であるが、それが正岡子規の俳句に認められるのであれば、日本語の表現の中に西洋風の捉え方が定着してきたということになる。

ロ 女性をユリの姿を表すシンボルとして利用するのも、女性がユリの花をかざすことをモチーフとするのも、絵画的なイメージとしてさらにユリを新しく位置づけるということであり、正岡子規の俳句がこれを定着させれば、日本文学の伝統を変えることとなる。

ハ 女性をユリの姿として表現するのは、シンボリズムという西欧のイデオロギーによるものである。それが日本の文化に入ってきたことによって、正岡子規の俳句は西欧の文脈を日本文学の文脈の中に応用することに成功したと言える。

ニ 「明星」の表紙画のように女性をユリの姿のイメージでシンボル化するという俳句を作ることは、シンボリズムという西欧の文化が近代日本においてすっかり定着したからできたことである。正岡子規がその点に成功しているのであれば文学の文脈が変化したことを示すものと言える。

ホ 女性をユリの姿として擬人化することは日本文化の中にも本来あったことだが、西洋のシンボリズムでもあった。正岡子規がそうした手法の共通性に着目したことは、西欧のシンボリズムを真に理解したことだと言える。

問三 傍線部**3**「晶子がロセッティに動かされて……信じられていたからである」とあるが、この意味するところとして最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 与謝野晶子は既存の語を西洋化した意味で用いたり、詩的な象徴にまで高めたりすることで日本語をより豊かにしたが、そのようなことが可能となった背景には日本の古典文学に対する深い知識があった。

ロ 与謝野晶子の短歌が革新的であったのは、和歌の伝統を尊重すべきであるという信念を貫きつつ、『万葉集』や和泉式部、与謝蕪村の用いた「みだれ髪」の系譜をふまえて詩作に臨んだからである。

ハ 与謝野晶子の用いた「夜の帳」という語は日本語の伝統のうちには存在せず、西洋文学の影響によって作り出されたものであるが、長らくこの語は日本の文学伝統として存在したと信じられていた。

ニ 与謝野晶子がイギリスの詩人ロセッティに勧められて短歌の革新をおこなった背景には、長い伝統を持つ日本文学がイギリス文学に勝るとも劣らない価値を持っているという晶子の確信があった。

ホ 与謝野晶子が短歌の西洋化という革新をなしとげたのは、日本の文学伝統があまりに強固であり、それを乗り越えない限りは短歌の未来はないという自覚を古典文学の愛読を通して持っていたからである。

問四 空欄 a ～ c に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ a 陳腐　b 健全　c 姑息
ロ a 姑息　b 健全　c 陳腐
ハ a 健全　b 陳腐　c 姑息
ニ a 陳腐　b 姑息　c 健全
ホ a 姑息　b 陳腐　c 健全

問五 傍線部**4**「精神を入れ替へ」るについて、筆者は具体的にどのようなことをするべきだと主張しているのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 和歌は腐敗し尽くして改良の手立てがないと批判することをやめ、今後の可能性を信じて改革を行うべきである。

ロ 和歌の中に何を詠み込むかにこだわることをやめ、形式を重要視することによってその命脈を保つべきである。

ハ 和歌の旧態依然たる趣向を捨て去り、漢詩や西洋の詩、サンスクリットの詩などの趣向を積極的に摂取すべきである。

ニ 和歌がこれまで採用していた非文学的思想を排除し、文学的思想を育んで理屈に縛られない歌を詠むべきである。

ホ 伝統的和歌のあり方に固執するのではなく、外国の語をも歌に詠み込んで外国の文学思想も取り入れるべきである。

問六　Aの文章の空欄 X に共通して入る漢字一字を、Bの文章の★以降から抜き出して、記述解答用紙の所定の欄に記入せよ。

問七　Bの文章の空欄 Y に共通して入るひらがな三文字を、前後の文脈をよく考えて、記述解答用紙の所定の欄に記入せよ。

問八　AまたはBの文章における言葉に対する正岡子規の姿勢を述べた文として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　Aの文章では、正岡子規が外来語による国語改良を目指す中で、日本語のうち外来語に置き換えられるものは積極的に外来語を使うよう主張したことが述べられている。

ロ　Aの文章では、正岡子規が俳句に詠んだ外来語の中にも、「ビール」などすでに幕末から日本に入っていて、表現の方法が確立していたものがあることを指摘している。

ハ　Aの文章では、正岡子規が外来語に好感を持って句作に採用したことが述べられているが、Bの文章では、外来語が日本の言葉や日本文学を破滅させると述べられている。

ニ　Aの文章では、正岡子規が外来語による国語改革論を主張したと述べられているが、Bの文章では、短歌において外来語と同様に漢語も採用すべきだと主張している。

ホ　Bの文章では、日本語の中から漢語を排除すると、『源氏物語』や『枕草子』のような古典文学はかろうじて残るが、近代の文学は成り立たないことが述べられている。

問九　AおよびBの文章の大意について述べたものとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　Aの文章は正岡子規の文学における漢文の重要性を述べつつ、その漢文の素養が西洋文化への関心と共に俳句にまで広がっていることを述べている。この点は、正岡子規によるBの文章でも同様で、旧来の和歌を厳しく非難すると共に、日本文化における漢語の重要性を主張している。

ロ　Aの文章は、正岡子規における西洋文化の摂取の様相を様々な作品によって明らかにし、与謝野晶子との共通点などにも言及している。この点、正岡子規によるBの文章は必ずしも西洋文化に焦点を当てているわけではないが、漢語や洋語の取り入れについて肯定的といえる。

ハ　Aの文章は正岡子規の漢詩によるナイーヴな東京への賛歌から始まり、野球への傾倒など、彼自身における西洋文化の摂取の深まりを様々な俳句を元に立証している。Bの文章は、その観点と軌を一にし、正岡子規自身が西洋文化の優位性を指摘し和歌文学の伝統を厳しく批判している。

ニ　Aの文章では西洋文化の輸入が明治文学を刷新したことを主に正岡子規における俳句など様々な作品をもとに例証し、西洋文化の輸入にも与謝野晶子など多様な形態があったことを指摘している。正岡子規によるBの文章はそれとは違い、和歌文学における漢文復古を強く主張している。

（二）次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

問十 傍線部A「食権力とは、食料の集中によって、人や社会や国を威嚇したり、その行動をコントロールしたりすることを意味する」とあるが、「食権力」について本文の内容と合致する最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 強大な食権力を持つ食料商社は、利益を得るために商品を売らないという圧力をかけることで、人びとに飢餓の恐怖を与え、食品の価格をつりあげている。

ロ 消費者に提供される便利な食品の多くは、巨大な食権力を持つ食料商社などが生産や流通に広く関与しており、その権力はあらゆる購買層に浸透している。

ハ 食権力は必ずしも負の側面を持つわけではなく、一定の量の食料を保管して共有することによって、国境を越えた経済危機や自然災害への支援も可能になる。

ニ 食料商社などが大量の食料を確保して食権力を持つ現状に対し、生産者はそれを左右できる存在であるため、連帯すれば食権力から完全に逃れる可能性がある。

問十一 空欄 [I] の段落は次の①～④の文から構成されるが、その並べる順序として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

① 逆にいえば、熱量を穀物倉庫に蓄えている国は、必然的に飢えにくい国だと言える。
② これが問題なのは、人間は食べることで熱量を保持できなければ簡単に死に至るからである。
③ 日本は、販売金額の自給自足率はそれほど低くないが、カロリーの自給自足率が低い。
④ ホウレンソウや小松菜や大根など日本の金額ベースの食料自給率を上げている品物だけでは炭水化物が足らず、体を動かすことが困難になる。

イ ④→②→①→③
ロ ②→③→①→④
ハ ③→②→④→①
ニ ④→①→③→②

問十二 次の文は本文中に入るべきものである。本文中の〔イ〕～〔ホ〕から最も適切な箇所を一つ選び、解答欄にマークせよ。

もっとつきつめていえば、純粋無垢な自炊などどこにも存在しないのである。

問十三　傍線部B「食の人間中心主義」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　食料の生産、加工、保管、共有がすべて人間の手によって行われ、人間社会の間で循環していると考えること。
ロ　「食」とは、人間生活の根幹であるが、同時に大自然の食物連鎖の中に人類の優位性を位置づけて考えること。
ハ　「食」とは、個々人の行動ではなく、人と人が強大な食権力に対抗するネットワークを築く力だと考えること。
ニ　料理をすることや食べることも、人間が人間らしくあるためにあらゆる生物への共感が必要だと考えること。

問十四　空欄 Ⅱ に入る最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　家族単位での工夫と節約による小規模なレジスタンス
ロ　地球環境全体にも目配せをしたほどよく緊密な団結
ハ　小さな集団としての巨大な食権力へのささやかな抵抗
ニ　非富裕層による大規模なネットワークの構築

問十五　傍線部C「他炊は、信頼とケアが衰微する時代の抵抗なのだ」とあるが、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　親が愛情をこめて作った料理を食べ続けることを通じて、子どもは親に全幅の信頼を寄せる体験を蓄積し、他者に対する信頼感の土台を培っており、相互不信に陥りがちな現代社会において、各家庭で親が料理を作って子どもに食べさせることは、他者への信頼感を社会に取り戻すために必要不可欠である。
ロ　現代の食事はインスタント食品などで、手軽に一人で済ませることも多いが、料理は本来一人で作って食べる孤独な営みではなく、他者とともに作った料理を一緒に味わい楽しむものであり、食を通じて大勢の人びとにぎやかに繋がる楽しさを取り戻すことによって、現代の希薄な人間関係に変化をもたらし得る。
ハ　料理には毒を盛られる危険性があり、他者が作った料理は作り手への信頼なしに食べられないということは忘れられがちだが、誰がどういう過程を経て作ったものかが見えず、食の安全性に不安がつきまとう現代において、作り手という具体的な存在を可視化することは食への信頼を取り戻す第一歩になる。
ニ　料理は食材の調達や調理などの過程に多くの人手と手間がかかり、他者からの手助けなしには成立しないため、複数の人びとが支えあって作られ享受される料理を、一人一人が意識し実践を積み重ねることは、互いに関心を寄せあって繋がることが見失われがちな現代の人間関係を問い直す契機になる。

問十六　傍線部1・2のカタカナの部分を漢字に直し、記述解答用紙の所定の欄に記せ（楷書で丁寧に書くこと）。

（三）次の甲・乙・丙の文章を読んで、あとの問いに答えよ。問題文中の古文・漢文は、原文を読みやすく改めたり、返り点・送り仮名・読点などを省いたりした箇所がある。

甲［次の文章は、興膳宏『中国名文選』（二〇〇八年）の一節である。］

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

乙［次の文章は、**甲**に言及される『孝子伝』郭巨である。］

郭巨者、河内人也。父無母存。供養勤々。於年不登、而人庶飢困。爰婦生一男。巨云、若養之者、恐有老養之妨。

Ⅲ

母抱児、共行山中、掘地将埋児。底金一釜、釜上題云、黄金一釜、天賜孝子郭巨。於是因児獲金、不埋其児。忽然得富貴、養母又不乏。天下聞之、俱誉孝道之至也。

丙［次の文章は、**乙**の類話にあたる、お伽草子『二十四孝』郭巨である。］

貧乏思供給
埋児願母存
黄金天所賜
光彩照寒門

郭巨は、河内といふ所の人なり。家貧しうして、母を養へり。妻一人の子を生みて、三歳になれり。①‖ 郭巨が老母、かの孫をいつくしみ、わが食事を分け与へけり。②‖ ある時、郭巨、妻に語るやうは、「貧しければ、母の食事さへ、心に不足と思ひしに、その内を分けて、孫に給はれば、乏しかるべし。これ、ひとへにわが子のありし故なり。③‖ 所詮、なんぢ

と夫婦たらば、子二度あるべし、母は二度あるべからず。とかく、この子を埋みて、母をよく養ひたく思ふなり」と、夫婦言ひければ、妻も、さすが悲しく思へども、夫の命に違はず、かの三歳の児を引き連れて、埋みに行き侍る。すなはち、郭巨、涙を押へて、少し掘④‖りたれば、黄金の釜を掘り出せ⑤‖り。その釜に、不思議の文字すわれ⑥‖り。その文にいはく、天賜二孝子郭巨一、不レ得レ奪、民不レ得レ取と云々。この心は、天道より郭巨に給はるほどに、余人取るべからずとなり。すなはち、その釜を得て喜び、児をも埋まず、ともに帰り、母にいよいよ孝行を尽くせるとなり。

問十七　**甲**の文章の空欄 I に入る漢字として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　以　　**ロ**　為　　**ハ**　加　　**ニ**　而　　**ホ**　即　　**ヘ**　与

問十八　**甲**の文章の傍線部**1**「逝く者は斯くの如きか、昼夜を舎てず」と左の漢文を訓読する場合、必要な返り点を記述解答用紙の所定の欄に記せ。ただし、記入するのは返り点のみで、送り仮名や句読点は書き加えてはならない。

逝　者　如　斯　夫　不　舎　昼　夜

問十九　**甲**の文章の傍線部**2**「揺曳させる」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　決定づける
ロ　覆いかくす
ハ　増幅させる
ニ　とおざける
ホ　ひきつける
ヘ　ひびかせる

問二十　左の文章は、**甲**に言及される『徒然草』第七十四段の後半部分である。その内容と**合致しない**ものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

身を養ひて何事をか待つ。期する処、ただ老と死とにあり。その来る事速かにして、念々の間にとどまらず。是を待つ間、何の楽しびかあらん。まどへる者はこれを恐れず。名利におぼれて先途の近き事を顧みねばなり。愚かなる人は、またこれを悲しぶ。常住ならんことを思ひて、変化の理を知らねばなり。

イ　愚かな人間が老いや死を悲しむのは常住不変であることを願うからである。
ロ　すべてのものごとが変化するということわりを知らない者は愚かである。
ハ　人間には老いや死がすぐさま訪れ、わずかな間も休止することはない。
ニ　人間がいかに身を養おうとも結局のところ老いや死は必ず訪れるものである。
ホ　迷界にある人間は老いや死が避けられない人生を楽しむことなどできない。
ヘ　名誉や利益に心を奪われて死が近いことを顧みないのは愚かなことである。

問二十一　**甲**の文章の傍線部**3**「春水（為永春水）」の作品を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　『雨月物語』
ロ　『金々先生栄花夢』
ハ　『春色梅児誉美』
ニ　『曽根崎心中』
ホ　『玉勝間』
ヘ　『南総里見八犬伝』

問二十二　甲の文章の空欄 Ⅱ に入る語として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　訓読
ロ　戯作
ハ　書簡
ニ　俳諧
ホ　駢文
ヘ　連句

問二十三　乙の文章の空欄 Ⅲ に入る最も適切な漢字を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　使　　ロ　何　　ハ　将　　ニ　豈　　ホ　対　　ヘ　有

問二十四　乙と丙の文章は、同一の逸話を伝えてはいるが、その内容は完全には一致しない。両者を比較した次の文の中で、正しい趣旨を説明しているものを**二つ**選び、解答欄にマークせよ。

イ　乙では生後まもない男児を犠牲にする話となっているが、丙では三歳になった男児に老母が食を与えるのを夫妻が疎んだため男児が埋められている。
ロ　乙では黄金の釜の銘文には男児を埋めてはならないとも記されていたが、丙ではそのような文言は記されていない。
ハ　乙では黄金の釜を得た夫妻が富貴になったとあるが、丙では人びとが争って黄金の釜を奪おうとしている。
ニ　乙では郭巨が母への孝をつくすことに加えて亡き父をしのぶ様子も述べられるが、丙ではそのような言及は一切みられない。
ホ　乙では郭巨の行動を当時の人びとがほめたたえたとあるが、丙では郭巨に対する人びとの評価については触れられていない。
ヘ　乙では夫妻が男児を犠牲にしようとしたのは凶年のことであったとあるが、丙では不作の年であったとは設定されていない。

問二十五　丙の文章の①から⑥の二重傍線部「り」のうち、傍線部4「り」と文法上のはたらきが**異なる**ものの数を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ　一つ　　ロ　二つ　　ハ　三つ　　ニ　四つ　　ホ　五つ　　ヘ　六つ

問二十六　甲・乙・丙の**いずれか**の文章の趣旨と合致するものを、次の中から**二つ**選び、解答欄にマークせよ。

イ　『孝子伝』の郭巨の話を徹底的に和文化したのが『今昔物語集』であり、その後の文体の標準となった。
ロ　郭巨の母は孫に自分の食事を与えるほど愛していたため、郭巨は子を埋めるのを躊躇した。
ハ　訓読によって考え出された語彙や語法は本来の日本語とは異なるものであったが、だんだんと日本語の中にとけこんでいった。
ニ　現在使用されている言文一致の文章は明治以来の作家が漢文訓読調との葛藤を経て和文脈に回帰したものである。
ホ　日本で古くからさまざまな試みがなされてきた訓読は漢語と和語を調和させながら漢籍を理解しようとするものであった。
ヘ　和文脈の基盤を支える役目を果たしていた漢文訓読調は、やがて和文脈をしのぎ最も権威を有する文体となった。

〔以　下　余　白〕

〈2026 R 08202023〉

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

（注意） 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

（採点欄）

（一） 問六

（二） 問十六

（三） 問十八

〈2026 R 08202023〉

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

（注意） 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

国語（記述解答用紙）

（一） 問六

問七

（二） 問十六

1

2

（三） 問十八

逝者如斯夫不舎昼夜